

# おとな・り(re)スタッフの 喜怒“愛”楽

“世田谷を愛する”  
おとな・り(re)  
スタッフの  
日々のできごと・  
ひとりごと

## 冬の 散歩の 楽しみ



冬になると散歩の楽しみが増えます。富士山を探す楽しみです。

春や夏には見えにくい富士山も空気が澄んだ秋から冬には、葉の落ちた木の間やビルの間隙から、思いがけずその姿を見ることができます。

私のお気に入りの富士見スポットは、小田急線の世田谷代田駅です。ホームは地下ですが駅舎

は高台にあつて、改札を出ると目の前に真西に向かって真っすぐに4本の線路が急降下しています。その線路の先に、朝は青空に白い雪をいただく富士が、夕方にはオレンジ色の夕日を背に薄墨色の富士のシルエットが浮かび上がります。

さらに駅から線路沿いの道を100mほど梅ヶ丘方向に進むと、線路の真上に小さな公園があつて、足元には小田急線、真正面には富士山と、絶景の写真スポットです。富士山が見えるとその日は何か得をした気分になりますね。

(写真・文／中津井泉)

(左の写真) 一番上の線は、2016年リオオリンピックの男子棒高跳びの金メダリストの記録6m3cm、その下が同じく女子の記録4m85cm、思いつき手を伸ばした先にあるのが男子走り高跳びの記録2m38cmです。

(右の写真) 上の方の人物と手前の足型(白い線)の間の距離が、男子走り幅跳びのもの、8m38cmです。テレビでは中々実感が湧きませんが、思わず見上げてしまうほどで本当にびっくり。まさに跳(超)人的です。三段跳びを試してみましたが、3歩跳んだつもりのところで、足がぐらついてしまい、

あきらめました。トホホ。

2020年の東京オリンピックがもうすぐ。どんな記録が出るか、応援するのが楽しみになりました。跳べ、ジャパン!

なお、この写真は世田谷区立中央図書館のロビーで撮ったものです。皆さんにも中央図書館に足を運んでいただき、実感していただければと思います。(写真・文／鈴木健文)



より高く、より遠く!  
東京2020大会

## 旅先に 世田谷を見て 思うこと



温泉や観光地へ旅行の際は都心から発着する旅行会社のバスをよく利用する。郊外になるにつれこちらとは違う風景が展開されるが、車窓からいろいろ感じる。インターを降り、さらに奥のローカルな町にも民家があるが、病院や学校、会社、商店を見かけない。生活はどうしているのだろうか。仕事は? 買い物は? 病気やケガをしたら? 車が必需品だがスタンド

は? 休日を楽しむところは? 次々疑問が湧く。

地元の商店街では選べるほど店があり、ドラッグストアやコンビニなど同業がもう要らない、というほどある。数分おきに電車・バスが当然のように来る。人が多く、税収があつて経済が回るからこそ行政サービスが受けられ、お祭り、無料イベントもできるんだ。

旅行は普段意識しない世田谷ライフを客観的に見られる機会だ。いかに自分が何でもある「特殊な」地域での利便な暮らしに慣れていないかを再認識した。(写真・文／宮腰昌男)

おとな・り(re)制作

区民ボランティアスタッフ募集!

詳しくは生活文化部市民活動・生涯現役推進課へ問い合わせを  
☎5432-2403